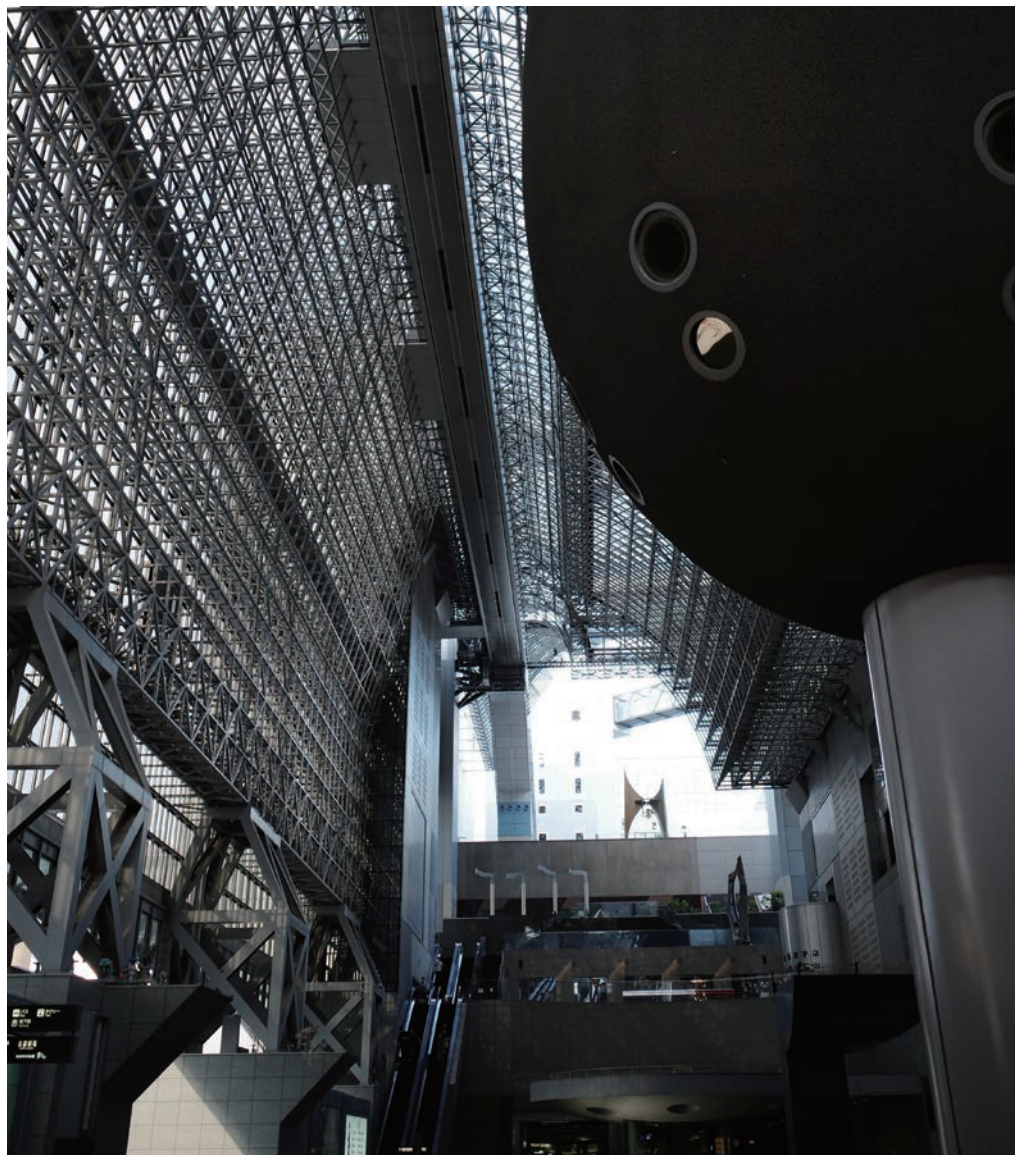




2023

2 月号

第394号

真宗大谷派京都教区 教化広報誌 教区だより

Shinran
500th

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

今月の「ことば」

ただいま

だれもない家

仏さまは

いらっしやる

今月の「ことば」は教区駐在教導が担当しています

CONTENTS

2 面	3 面	4・5 面	6 面	7 面
連載 第3回 真宗教団の中の 女性たち みよし えつこ 見義 悦子 氏	今、この時に、 親鸞聖人に会う 近江第11組 たかぎ あきこ 高木 明子 氏	特集 名称変更への願い 京都教区同和協議会	特集 女性声明講習会の活動 京都教区准堂衆会	教務所からのお知らせ イマダカラ 8 面 今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。くわしくは、教務所、教区駐在教導まで。



(富山教区 正覺寺 副住職)

第三回 女性と同朋会運動

一九六二年同朋会運動が「家の宗教から個の自覚の宗教へ」を願いとして発足した。同朋会運動学習資料集には「宗祖親鸞聖人の信心へと自覚的に回帰することであり、具体的には「家の宗教から個の自覚の宗教へ」ということです」とある。教団のこれまでの歩みを根本的に転換しようとする意気込みが感じとれる。

ではその時坊守はどうだったのか。住職と坊守は主と従として、住職の裏にびったりと重なった関係を生きている。二人で一人なのである。だから坊守を対象化する必要がなかったともいえる。そのため、同朋会運動の願いは坊守には届かなかった。そして坊守は組織され「会」

の中に閉じ込められた。住職を裏から支え、聞法し、跡継ぎを産み育てるという役割に真面目に生きてきた。しかし、自分が身を置いている教団が見えていなかったように感じる。そのことは、教団問題が起こったとき、坊守会連盟や大谷婦人会が出している要望書から伺える。(資料一〇〇、一〇一) ある意味で教団や教区にどんな問題が起こっても、それは住職の役割だから、まかせておけばよいという生き方である。役割分担の固定化の姿である。

かつてある先生が「あなた達は主人につながれて、一人に立てない。この生き方を畜生という。何が起ころうとも主体的に真正面から向きあわず、責任転嫁に走る。物事を斜めから見ていて評論はできても自分の問題とはならない」とおっしゃった。この言葉は常に私の中で反芻させられている。同朋会運動は、その生き方を問うてくる運動であると思う。

ともかくそんな坊守にはじめて視点があてられたのは、同朋会運動十五周年に向けて、一九七五年頃から始められた運動の総括と点検がなされたことによる。その研修計画は「近年、同朋会運動推進によって顕わになってきた教団問題の本質をとらえ、これからの運動の中心となる人々を啓蒙、発掘、養成する」(資料一〇三) ことを目的として「昭和世代への啓蒙」

が目標に掲げられた。これによって初めて坊守にも波及し「昭和五〇年度坊守会連盟の運動方針並びに目標」(資料一〇四) として「坊守が同朋会運動を主体的にとりくむために、(中略) 教化研修事業を、同朋会運動の路線にのせ・・・」と掲げた。この研修計画により「昭和世代」の啓蒙を視野に入れて実施されることとなった。

私の教区にあつては、従来の「坊守会」とは別に教団の企画による昭和世代の坊守を対象とする「昭和世代坊守学習会」が発足されている。そこでは「現代の聖典」をテキストに「真宗の女性観」の講義が毎月開催された。若坊守が「真宗聖典」を持つて学習会に臨むことは初めてのことであった。まさに次世代を担う坊守が育つ場が生まれたのである。今思えば男性の語る韋提希像を聞いてきたのである。しかしそんな中から問いを持つ女性たちが育ったといえる。坊守たちは対象化されることによって初めて自分と向きあう場とチャンスを持ちえたのである。そしてようやく同朋会運動の願いと向きあう歩みが始まったように感じている。

【資料一〇〇】 管長問題に関し大谷婦人会、要望書提出

〔一九六九(昭和四四)年〕

揺れ動く宗門世論 大谷派の管長問題

速やかに関申の趣旨達成を 大谷婦人会宗務当局へ要望書(略)

大谷婦人会の要望書は、さる十二日、京都・大谷婦人会館で開かれた北陸、東海、近畿の各連区理事、評議員の会合でまとめられた。

要望は次の通り。

「御法主台下には、先に開申をさらに御親書をお示しになられ、新門さまを管長にとお望みになられてから、すでに幾月かを経過しましたことは、まことに遺憾に堪えないところであります。私どもは台下の深厚なる思召しを推察し会長・お裏方様のお心を御拝察申し上げるとともに、時代に応える輝かしい宗門の進展を期待し、ご意趣の達成の速やかならんことを念願し、宗務当局の善処を要望する次第であります」

この要望書は出席した理事・評議員十四名が連名で署名した上、同日、訓覇内局に提出。さらに大谷婦人会の五百八十支部宛に、経過報告書とともに送付することになっている。なお、大谷婦人会は会員約十五万人といわれている。

〔『中外日報』一九六九(昭和四四)年八月一六日〕

【資料一〇一】 管長問題に関し坊守会連盟、要望書提出

〔一九六九(昭和四四)年〕

新門の管長就任を 大谷派坊守連 当局へ再度の要望

真宗大谷派の坊守連盟(坂東信子会長)では、さる七日、東本願寺で緊急常任委員会を開いた。この席上で、管長問題をめぐって宗門が混乱をつづけていることに対して「話し合いによる宗門平和」と宗門の将来へのビジョンの発表を訓覇信雄宗務総長に要望することを決めた。その要望書要旨は次の通り。

「宗門の重大な危機に立っている今日、従来の情実で去就を決め、お互いに他を陥れる発言、行動に終始されている。これでは宗門の将来はまことに危いものである。この際、何人にも納得のできる方針をはつきり示してほしい。宗門の中に育てられてきたみ親の子でありますから、宗門を大切に思う一念があれば話し合いのできない筈はないと信じる」

この要望書を提出して、坂東会長は「私たちは、さる七月にも訓覇総長に、管長問題の円満解決を要望したが、今だにそのきざしがないので、第二回の要望を出すにいたった。宗門が、このように混乱している以上、何よりもまず、新門さまの管長就任を実現していただきたいと考えているものです」と話した。

〔『中外日報』一九六九(昭和四四)年一〇月一〇日〕

【資料一〇二】 「第四次五力年計画同朋会運動推進のための事前研修計画概要」

〔一九七六(昭和五二)年〕

第四次五力年計画同朋会運動推進のための事前研修計画概要

目的 同朋会運動推進十五周年を明年にひかえて、第四次五力年計画を立案するにあたり▼近年、同朋会運動推進によって顕わになってきた教団問題の本質をとらえ▼これからの運動の中核となる人びとを啓蒙・発掘・養成するとともに▼第四次五力年計画の運動の方向・内容等を明確にする。

目標 右記の目的を実現するために、次の通り目標を設定する。昭和世代への啓蒙▼十五周年記念同朋大会は推進員と共に結集▼同朋会運動の担い手を発掘。

テーマ 「真宗門徒としての生活態度を確立しよう」

内容 本誌「巻頭のことば」の「三点を骨子とした計画」と「手づくりの運動を参照。具体策 中央と地方の連携の下に▼昭和世代啓発集会(組において実施)▼育成スタッフ養成集会(中央と教区で開催)を組みあわせていく。(以下略)

〔『真宗』一九七六(昭和五二)年二月号〕

【資料一〇四】 一九七五年度坊守会連盟の運動方針を強化する

〔一九七五(昭和五〇)年〕

坊守会連盟報告

昭和五〇年度坊守会連盟の運動方針並びに目標

連盟の運動方針 坊守が同朋会運動を主体的にとりくむために、連盟主催又は共催の教化研修事業を同朋会運動路線にのせ、坊守学習、子弟教育、婦人教化の在り方を模索しながら、坊守として各寺の同朋の会の育成に努力する。

連盟の運動目標

連区坊守研修会と連盟の連帯―改善目標―

昭和五〇年度坊守会連盟教化研修事業計画

連盟主催のもの ①坊守会幹部研究集会(新設)②坊守中央研修会(第三回)

③新坊守研修会(新設)

連盟共催のもの ①連区坊守研修会②教区坊守研修会

〔『真宗』一九七五(昭和五〇)年九月号〕

※資料は『女性史に学ぶ学習資料集』(真宗大谷派解放運動推進本部女性室編)より抜粋

今、この時に、 親鸞聖人に遇う



修練での気づき

京都教区 近江第十一組

養照寺 副住職 高木 明子

今から十数年前になりますが、私が本山での前期・後期修練を終え、強烈に気づかせていただくきっかけになったことが二つあります。一つは、ただひたすら聞いたことをそのまま書き記す講義です。「全文筆記」：何でも必要なんだ！最初は講義の先生がお話になる内容そのままを書き記すことに疑問を感じながらも講義を受けていたのですが、すぐその書き記すことの難しさに辟易としてしまいました。何で私はこんな簡単なことが難しいのだろう…。初日は散々でした。ある朝、はつとしたのです。これまで私は先生のお

話しされている内容をまっしろな気持ちで聞いていなかったのです。自分勝手な先入観で、都合よく予測文字まで出てきてしまっていたのです。要は自分が都合のいいように聞いていたから全文筆記ができなかったのです。それに気づいてからは講義のお話しが素直に聞けるようになり、文字や文章の間違いも次第になくなっていききました。この気づきは私にとって、とても大きなものでした。

二つめは、班担の先生が私におっしゃった「それであなたはどうなの？」というお言葉です。私はそれが一番辛く、修練の間、何度も心が折れそうになりました。今思うと、自分を問うなんてこと全くしていなかったのです。後期修練に入っても、「それであなたはどうかなの？」にびくびくしながら何とか終了し、日常生活に戻ってありました。その間、母の介護、友人の死、そして今までの普通が、今まであたり前にやっていたことが、日々の日常がひっくり返るような出来事がおこっていききました。コロナ、ウクライナ…。悶々とする毎日を送るうち、ある日「あ、そうか！私自身を問わなければ！」とストンと何かが落ちたのです。私はいつも自分の都合のいいように他を見、聞き、行動していたのです。まさに、お正信偈の「邪

見憍慢悪衆生」そのものでした。修練で班担の先生がおっしゃった「それであなたはどうかなの？」のお言葉にその時やっと気づくことができました。今もあの修練での経験は私の生活に入りこんで、「ほら、今自分の都合で聞いているよ」。

「ほら、今、自分の都合のいいように見ているよ」「それであなたはどうかの？」と、日々問われつづけています。



特集 京都教区同和協議会

名称変更への願い

教区同和協議会は昨年度より名称を改称することの是非を様々な学習や研修を通して議論してきました。これまでの過程での議論の行方や、あらためて、「同和」という言葉の問題性を指摘してもらい、教区全体でこの問題を考えるきっかけをもらいます。

京都教区同和協議会

会長 谷大輔

京都教区同和協議会はこの名称で長年活動してきましたが、このたび名称を「部落問題に学ぶ同朋協議会」と変更いたします。

二〇〇四年三月、「同和審議会」（片山寛隆会長）は熊谷宗恵宗務総長（当時）に対して『具申書』を出しました。具申の内容の第一は「同和」の用語の改正についてでした。『具申書』は「天皇による「一視同仁」という平等観、四海同胞」という世界観から、「同和」という言葉が生まれた」と指摘します。『具申書』は、そういった背景を持つ「同和」という言葉を解放運動を推進する組織の名称として使用とすることに対しての提言でした。こういった指摘を受けて、大谷派では「同和推進本部」を「解

放運動推進本部」と改称しました。

二〇〇四年以降、全国各教区にあった「同和協議会」の名称変更について議論されました。京都教区においては、「同和」という言葉に問題はあるが、京都教区同和協議会は部落差別問題を中心に活動してきた歴史があり、その方向性で今後も活動展開をするので、「同和」という言葉は残す」ことを議論の末、決定しました。

二〇二〇年、同和協議会が新体制になったことを機に、今一度「同和」という言葉の問題性が課題となりました。『具申書』の提言を確認し、かつて『同朋新聞』において被差別部落の方が「私のどこが「同和」なのか。意味の分からない言葉を押しつけられたくない」と声を挙げられたことを憶い、改めて「同和」という語句を問い直しました。

運営委員会で何度も議論を重ね、二〇二二年一月には訓覇浩氏（元解放運動推進本部）から「同和」という言葉について」の講義をいただき「同和」という語句の問題性を確認し、同和協議会の名称は改称することが決定しました。

新名称を決めるにあたり、今後の「同和協議会」がどのような方向性を持つのか、まず

運営委員会で議論されました。二〇一〇年以降、「同和協議会」は、部落差別問題を中心にしつつ、現代における様々な差別問題を研修する活動を展開しています。今後の方向性として、数年来の活動内容を踏襲することになりました。その中で親鸞聖人の教えに還ることが抜け落ちない活動展開をすることが決められました。また、部落差別問題や諸差別問題を先鋭的に学んでいる専門家集団になるのではなく、この組織に関わることを縁として、それぞれの教化現場で部落差別問題や諸差別問題を取り上げる、もしくは部落差別問題や諸差別問題の視点を持ちながら教化活動を展開する人が一人でも生まれることが願われました。

こういった今後の「同和協議会」の方向性を言語化した名称が「部落問題に学ぶ同朋協議会」です。

長浜教区との合併が二〇二四年に迫っていますが、現京都教区同和協議会は名称変更と規則改正を行い、これまで議論してきたことを形に表現したうえで、長浜教区との合併に臨みたいと思います。

特集 女性声明講習会の活動

この会は、二〇〇三年に始まり、二〇年間地道な活動を続けてこられ、近年は年四回開催されています。会を担当されている京都教区女性准堂衆の方々にお話をお聞きしました。

「女声、声明講習会」のはじまり

大谷派の声明は長い歴史の中で男性から男性へと伝承され、成人男性の音域で成立しています。男性が多数を占めるお勤めの中では、「男声と合わせづらい、苦しくて声が出しにくい」と感じている女性が多くおられます。また男声に合わせてしまうと無理な声の出し方をしているのが現状です。そのような中、二〇〇三年女性の講師による「女声、声明講習会」が始動しました。

自分の声を大切に

講習会では、男女の身体づくりや声帯、音域の違いなどを学び、自分自身の無理のない自然な声で発声することからはじめています。男性の音域に合わせた声を出すことで声帯を壊さないように、まず自分がいちばん伸びやかに出る声を確認したうえで、自分の声を大切にするをお伝えしています。

男声・女声には差異ちがいがあります。その差異を尊重しあうことが大切だと考えています。

両声の歩み寄り

この二〇年間、女性住職、坊守等、女性の参加が多いですが、時には男性僧侶、ご門徒中には住職であるお父さんと小学生の娘さんが一緒に参加してくださったこともありました。性別・年齢を問わずいろんな層の方が何らかの思いを持って参加されています。最近では、開催ごとにアンケートを取り、参加者の悩みや課題を聞き取り、共有し、次回につなげています。

「男性と一緒にお勤めをする時、念仏和讃の三重では高い声が出ずにその場でのお勤めの響き方やバランスを考えると結局、声を出すことを諦めてしまうのですが、この講習で先生が仰ったようにお互いに声を意識することで少し改善されるような希望を持てました。」
(女性参加者)

「本堂でご門徒さんとお勤めしていて、今まであまり女性の声が聞こえなかったが、この音域なら出しやすいだろうか、と意識して調声することで、女性の声が聞こえてくるようになりました。」(男性参加者)

両声がお互いの声を聞き、その差異ちがいを知り、それぞれに歩み寄ることが大切ですね。

これから

最近では、コロナ下ということもあり、オンラインを併用して講習会をしています。オンライン参加者からは、「小さな子どもがいるため自宅から参加できるのはありがたい」という声もいただいています。

この会が、悩んだり困ったりしている方が安心していつでも集える場になることを願っています。

また、どのように歩み寄れば「両声による同朋唱和」がうまれるのか、男声の方とも一緒に学んでいきたいと思っています。ぜひご参加ください。

(主催 京都教区准堂衆会)

THE EDITORS EYE

参加されている方は緊張しつつ、安心して発声をしておられたように感じました。先生方は「自分の声を大切に発声すること」を繰り返してお話しされます。私も男性の多い法要に参列すると無理に声を出すことに力が入ってしまいますが、この会に参加し続けることで学び直す機会をいただいています。

今後は参加者の要望をもとに装束の着付け方や実践的なお稽古も考案中とのことで楽しみにです。
(出版部会 徳田潤子)

教務所からのお知らせ

【住職任命者】

二〇二二年十二月二十八日付

・山城第三組 聞法寺 廣小路直人
・近江第七組 正明寺 杉本智海

【敬弔】

ご生前のご功労を偲び、謹んで
哀悼の意を表します。

・近江第二組 傳久寺

住職 武村仁史

二〇二三年一月十一日

七十二歳

・近江第二組 笠堂寺

前住職 藤岡明信

二〇二二年十二月十九日

九十一歳

・近江第六組 弘教寺

前住職 廣瀬眞一

二〇二二年十二月一日

八十八歳

・近江第九組 本正寺

坊守 松澤さかゑ

二〇二二年十一月二十九日

六十六歳

〔敬称略〕

本山からのお知らせ

○慶讃法要ボランティア募集

このたび、宗祖親鸞聖人御誕生
八百五十年・立教開宗八百年慶讃
法要にあたり、「慶讃法要ボランティア」としてご協力いただける方を募
集します。

全国の御同朋と共に慶讃法要をお
迎えませんか。多くの方々の参加
をお待ちしております。

募集対象

真宗大谷派の僧侶・門徒・関係学
校の学生・その他有縁の方

応募方法

所定のエントリーシート(※)に必
要事項を記載のうえ、以下応募先ま
で郵送またはFAXにて提出ください。

真宗大谷派宗務所総務部
慶讃ボランティア募集係

TEL: 075-371-9272

FAX: 075-371-1214

応募締切

二〇二三年二月二十八日(火)

※募集内容などの詳細については、
『真宗』二月号の三〇頁に掲載さ
れています。

※エントリーシートは慶讃法要特
設サイトよりダウンロードくだ
さい。

慶讃法要
特設サイト



長男が小学校一年生の時、読み語りボ

ランティア募集のプリントを学校から
持つて帰ってきました。毎週木曜日の八時
十五分～三十分の十五分間が読み語りの
時間で、参加は学期に一回でも何回でも構
わないとのことでした。私は、我が子

が寝る前にいつも絵本を読んでいた
こともあり、深く考えることなく気
軽に参加しました。▼ところが実際
にやってみると、まず絵本の持ち方が

わからず戸惑いました。しばらくし
て、読み語りボランティアの勉強会が
あることを知り、そこで絵本の扱い方
や選書について学びました。振り返れ

ば十五年が過ぎ、今は小学校といく
つかの保育所で読み語りボランティアを
続けています。▼子どもはお話が好きです。
今日はどんなお話が興味津々な眼差しで、

絵本が入っている鞆を見つめる子どもた
ち。好奇心旺盛で鋭い観察眼を持つ子ど

もたちは絵本の絵を読むことに長け、言

葉の音やひびき、リズムや繰り返しを心
から楽しみます。気に入ったお話は何度で
も聞きたがり、つまらない時はつまらない
顔をして、つまらないと言います。私には

もう無い子どもの感性を知る度、驚
きと羨望の気持ちになります。▼私
たちは「待つ」ことの少ない生活をし
ています。ドラマ等を早送りで見た

り、映画はあらずしがわかるだけで
よかったり、本は途中を読まず最初
と結末だけを読む人が増えつつある
と聞きました。これでは、登場人物が

どんな人や出来事に会い、そこで
何を感じて考え、どのような思いで
行動したかを知ること、心の機微にふれ
ることもないでしょう。▼お話は自分と異

なる人生を教えてくれるものであり、自分
を知ることにつながっていくものだと感じ
るのです。(出版部会 前田素子)

イマダカラ

編集後記

The editor's note

二〇二四年七月から、長浜教区との合
併で新教区となる。残り一年半を切る中
で『教区だより』をどうするかが課題と
なってくる。何を伝え、何を残すか、課題
山積だ。

さて、その中で伝えなければならないこ

との一つ、慶讃法要が来月よりご本山で勤
まります。『慶讃だより』が担っていた広
報を『教区だより』でも担当していきます。
ご本山、各地域で勤まる慶讃法要。出版
部会のメンバーが皆さんのお近くへ取材
に出かけました際にはご協力をお願いい
たします。(出版部会 蒲池義圭)

京都教区 2月の行事予定

教区・地区・関係団体事業

4日(土)・5日(日)	青少年教化 各組代表者研修会	教区会館
6日(月) 16:00～18:00	准堂衆会	教区会館3階 研修室
8日(水) 9:30～15:30	坊守会 基礎講座 (Zoom併用)	教区会館2階 大講堂
8日(水) 16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館2階 大講堂
9日(木) 16:30～18:00	仏教青年会 声明教室 (Zoom併用)	教区会館2階 大講堂
12日(日) 13:00～16:30	男女両性で形づくる教団を目指す研修会	小浜市働く婦人の家 福井県小浜市大手町 4-1
15日(水) 13:00～15:00	准堂衆会 女性声明講習会 (Zoom併用)	教区会館2階 大講堂
16日(木) 13:00～17:00	組長・組門徒会長研修会 (湖東、湖南、湖西 地区)	教区会館
17日(金) 13:00～17:00	組長・組門徒会長研修会 (若狭、山城、丹波、石見 地区)	教区会館
21日(火)・22日(水)	第16期 伝道研修会 第5回	教区会館
25日(土)・26日(日)	春期 京都教区教師試験検定 準備学習会	教区会館
28日(火) 16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館2階 大講堂

教区諸会議

7日(火) 13:30～16:30	教化推進本部 出版部会 (Zoom 会議)	Zoom
8日(水) 13:30～16:30	新教区準備委員会	しんらん交流館 大谷ホール
13日(月) 13:30～17:00	新教区準備委員会 特区小委員会	長浜教務所
16日(木) 13:30～17:00	新教区準備委員会 財務小委員会	同朋会館3階 西講堂
20日(月) 13:30～17:00	新教区準備委員会 教化・組織小委員会	同朋会館3階 西講堂
22日(水) 13:30～17:00	新教区準備委員会 教化推進本部 調整協議会	しんらん交流館 会議室

教区別院事業

5日(日) 13:00～14:00	赤野井 定例法要	赤野井別院
6日(月) 14:00～16:00	伏見 声明作法講座	伏見別院
10日(金) 14:00～16:30	伏見 伏見別院 同朋会	伏見別院
13日(月) 9:00～12:00	岡崎 三日講	教区会館2階 大講堂
14日(火) 13:30～15:30	山科 同朋の会【法話】赤松崇磨 師 (教区駐在教導)	山科別院
15日(水) 14:00～16:00	山科 定例法話【法話】藤岡裕信 師 (近江第2組 笠堂寺)	山科別院
21日(火) 14:00～16:00	大津 同朋の会【法話】吉田剛 師 (近江第1組 瑞蓮寺)	大津別院
25日(土) 14:00～16:00	山科 定例法話【法話】治田義章 師 (近江第2組 善念寺)	山科別院
27日(月) 13:00～14:00	赤野井 定例法要	赤野井別院
27日(月) 14:00～16:00	伏見 ご命日のつどい【法話】浅井仁磨 師 (山城第1組 瑞蓮寺)	伏見別院

各地区等のお待ち受け法要

19日(日) 13:30～16:00	丹波第2組 お待ち受け大会	ガレリアかめおか 2階ホール 亀岡市余部町宝久保 1-1
23日(木) 13:30～16:00	因伯組 お待ち受け聞法会	とりぎん文化会館 鳥取県鳥取市尚徳町 101-5

Shinran
850th

＜宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ＞＜京都教区教化テーマ＞



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

慶讃法要期間

【第1期法要】3月25日～4月8日

【讃仰期間】4月9日～4月14日

【第2期法要】4月15日～4月29日

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

『教区だより』第394号

【発行人】篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)

【発行所】真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】鳥籠 Bird cage / JR 京都駅にて (石東組 善徳寺 河野恵嗣)

発行日 2023 (令和5) 年 2月1日

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト

https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

